

原 著

佐久総合病院皮膚科昭和49年度の外来統計

安 藤 幸 穂 堀 内 信 之

佐久総合病院皮膚科

THE STATISTICS OF THE OUT-PATIENTS AT DEPARTMENT OF DERMATOLOGY, SAKU CENTRAL HOSPITAL IN 1974

Yukiho ANDO and Nobuyuki HORIUCHI  
Department of Dermatology, Saku Central Hospital

Key words: 臨床統計 (clinical statistics)  
帯状疱疹 (herpes zoster)

I. はじめに

ほぼ本州中央部の、標高のやや高い山間部の農村地帯に本院は位置する。また気候も内陸性である。こうした地域特性が皮膚疾患へいかに反映するかに興味をもって統計調査を行なった。

II. 対象と方法

1974年1月1日から同12月31日までに受診した新来患者、男子1327名、女子1749名、計3076名を対象とした。

疾患分類は北村、川村<sup>1)</sup>に準じた。同一人に各々独立した複数疾患のあるときは、それぞれ別の疾患としてとりあげた。このため、疾患総数は患者数を上まわっている。

III. 結 果

月別新来患者の男女別および合計数を図1に示した。年間を通して、女子の月別数は男子のそれを上まわっている。

男女とも、新来患者数は5月より増加して8月に最高となるが、9月には急激に減少する。秋(9~11月)、冬(12~2月)および春(3~5月)の前半期は、比較の変動が少なく一定数を保っている。

男女別年齢分布を図2に示した。0~9才と20代女

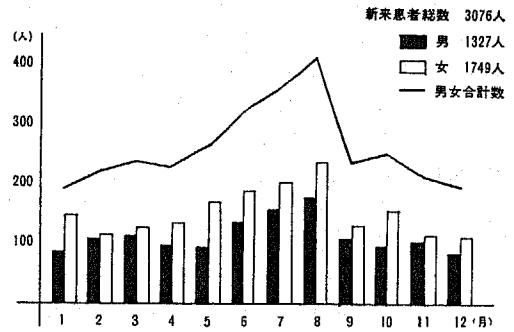


図1 月別新来患者数

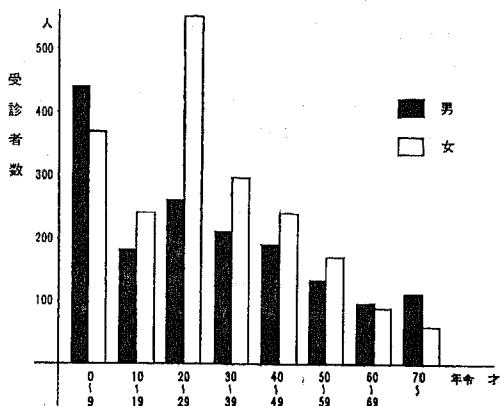


図2 年齢別分布

子に著明なピークをみとめる。10代から50代の男子はつねに女子より明らかに少ないが、60代ではほぼ等しくなり、70才以上ではむしろ男子がやや多い。これらは、小野<sup>2)</sup>の報告と一致する。

10才未満の男女にみる第1のピークの内容は、小児湿疹、膿痂疹、癬癩皮膚炎などである。20代女子にみる第2のピークは主として手皮膚炎である。結婚、出産に伴う仕事、特に水仕事の増加が、手皮膚炎急増の原因と思われる。高瀬、岡本<sup>3)</sup>は1962年と1972年の各1年間の本症患者数を比較するに絶対数では54例が127例に、総患者数との比率は0.9%より2.0%と、各々表面上増加した。しかし、これら例数と総患者数に対する比率の変動は、危険率5%で統計的有意差を認めないといっている。また彼等は、年令別実数とその百分率から本症は20代女子に好んで生じ、それ以外の年代では明らかに低い値を示す。20代女子が全患者の45.0%を占め、これは国勢調査資料の20代女子が全人口に占める比、18.8%を統計的に上まわっていると述べている。この年代の女子が同年代の男子に比し受診しやすい環境にあることも無視できない。

地域別受診者数を図3に示した。さらに人口あたりの比をも記入してある。本院所在地の臼田町と、隣接する佐久市の受診者が多く、それぞれ全受診者の約1/4を占め、他の地域をはるかに離している。受診率も5.05%と臼田町は高いが、遠方である専門農家の多い川上村、南牧村(主として蔬菜作り)、八千穂村(主

として菊作りなど)、南相木村(主として蔬菜作り)で比較的高い。県外受診者は147人と、かなりみられる。疾患分類別患者数を図4に示した。疾患数は3625、

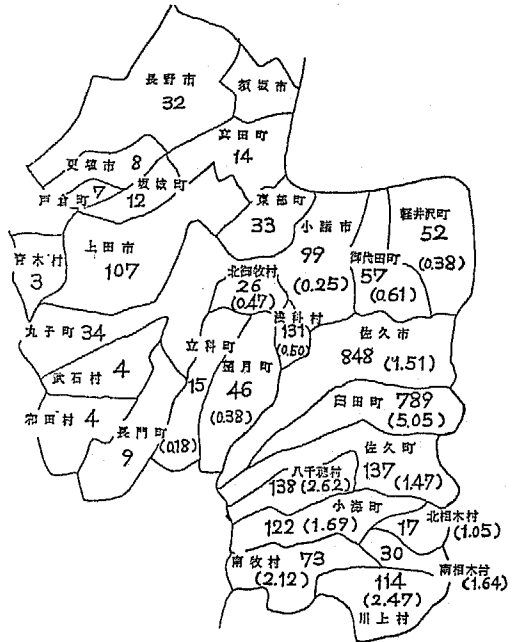


図3 地域別受診者数  
(カッコ内は住民内に占める受診者の%)  
その他県内 46 東京都 57  
関東・甲信越 68 その他 22

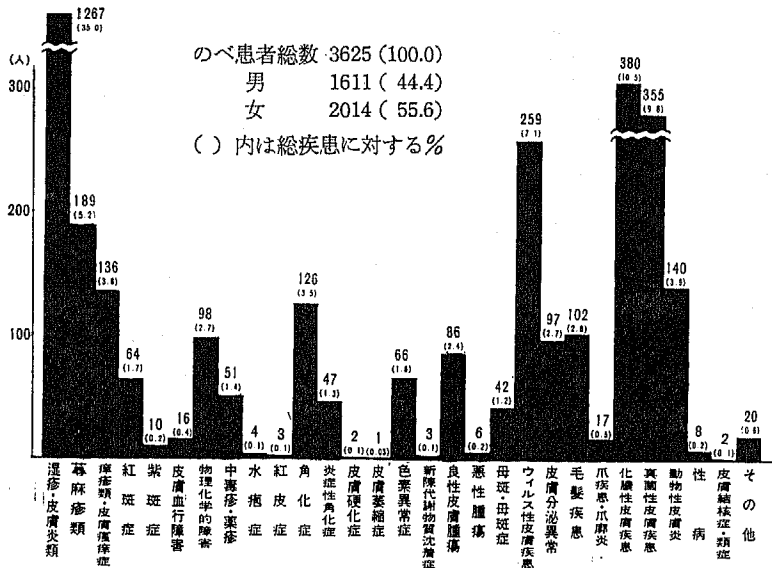


図4 疾患分類別新来患者数

うち男子1611, 女子2014である。175の疾患を28群に分類し, いずれにも分類できないものをその他とした。湿疹皮膚炎類は1267名, 全体の35%と最も多く, 化膿性皮膚疾患の380名(10.5%), 真菌性皮膚疾患の355名(9.8%), ウィルス性皮膚疾患の259名(7.1%)と続いている。以下蕁麻疹類, 動物性皮膚炎, 痒疹・皮膚掻痒症が多い。ウィルス性皮膚疾患, 動物性皮膚炎は, 他機関に比し非常に多く, 化膿性皮膚疾患, 真菌性皮膚疾患, 蕁麻疹類も諸家の報告<sup>2)4)5)</sup>に比較して多い。

湿疹皮膚炎類の病型別患者数を図5に示した。数字は男女の合計数を示している。

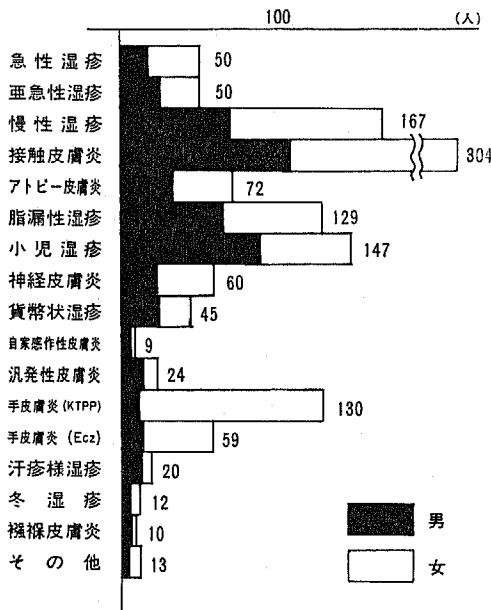


図5 湿疹・皮膚炎類の病型別患者数

接触皮膚炎が304名と圧倒的に多く, 以下慢性湿疹167名, 小児湿疹147名, 手皮膚炎(進行性指掌角皮症型)130名, 脂漏性湿疹129名と続く。手皮膚炎の進行性指掌角皮症型では, 女子が男子の10倍と多くなっている。高瀬-岡本らの言う皮膚素因を基盤にしつつも, 女子, 特に主婦では水仕事や洗剤を使用する機会が, 男子に比較しはるかに多いからであろう。湿疹皮膚炎類の患者総数に占める割合は, 信州大学<sup>5)</sup>, 東北大学<sup>4)</sup>などその他の機関と同率であるのに, 接触皮膚炎の占める率が非常に多い。接触皮膚炎の原因はさまざまであるが, 高原野菜, 菊作りに使用する農薬,

あるいは高原野菜や菊そのものによる皮膚炎もかなり含まれている。

患者数の多い上位23疾患を表1に示した。百分率は新来患者総数に対する比率を示す。

表1 上位23疾患

| 順位 | 疾患名         | 患者数 | 百分率   |
|----|-------------|-----|-------|
| 1  | 接触皮膚炎       | 304 | 9.88% |
| 2  | 慢性湿疹        | 167 | 5.43  |
| 3  | 汗疱状白癬       | 150 | 4.88  |
| 4  | 虫刺症         | 138 | 4.49  |
| 5  | 手皮膚炎(KTPP型) | 130 | 4.23  |
| 6  | 脂漏性湿疹       | 129 | 4.19  |
| 7  | 尋常性痤瘡       | 117 | 3.80  |
| 8  | 頑癬          | 110 | 3.58  |
| 9  | 小児湿疹乾燥型     | 103 | 3.34  |
| 10 | 急性蕁麻疹       | 96  | 3.12  |
| 11 | 伝染性膿痂疹      | 84  | 2.73  |
| 12 | 帯状疱疹        | 81  | 2.63  |
| 13 | 円形脱毛症       | 73  | 2.37  |
| 14 | アトピー皮膚炎     | 72  | 2.34  |
| 15 | 皮膚掻痒症       | 68  | 2.21  |
| 16 | 神経皮膚炎       | 60  | 1.95  |
| 17 | 手皮膚炎(湿疹型)   | 59  | 1.91  |
| 18 | 伝染性軟属腫      | 56  | 1.82  |
| 19 | 日光皮膚炎       | 52  | 1.69  |
| 20 | 癬           | 50  | 1.63  |
| 21 | 急性湿疹        | 50  | 1.63  |
| 22 | 亜急性湿疹       | 50  | 1.63  |
| 23 | 汗疱          | 50  | 1.63  |

接触皮膚炎(9.88%)が特出し, 慢性湿疹(5.43%), 汗疱状白癬(4.88%), 虫刺症(4.49%), 手皮膚炎(KTPP型)(4.23%)と続く。

汗疱状白癬, 頑癬などの真菌性疾患は, 東北大学の統計<sup>4)6)-10)</sup>では近年やや増加の傾向にあるが, 高原地帯で乾燥型の当地方でもかなり多く, 同じ県内の信州大学<sup>5)</sup>の2倍以上である。

虫刺症も非常に多く, 信州大学<sup>5)</sup>, 東北大学<sup>4)</sup>, 小野(姫路市)<sup>2)</sup>の報告の2倍~3倍である。この中には蜂さされも数例含まれている。

小児湿疹乾燥型, 急性蕁麻疹, 伝染性膿痂疹, 帯状疱疹, 伝染性軟属腫, 日光皮膚炎などは, 上記他機関に比較しやや多い。伝染性軟属腫と乾燥型の小児湿疹が合併している症例が多い。帯状疱疹はあらためて後述するが, 諸家の報告のいずれよりも多い。日光皮膚炎は東北大学の0.26%<sup>4)</sup>と比較して, 1.69%と多

い。当地は日光光線の透過率、標高が高く、日照時間も長く紫外線照射量も従って強い。また屋外での作業の多い農村であるから、この差も当然であろう。これに反して、円形脱毛症は2.37%で、東北大学3.95%<sup>4)</sup>、信州大学4.0%<sup>5)</sup>、札幌医大3%<sup>16)</sup>に比較してやや低い。

上位5疾患の月別変動を図6に示した。

接触皮膚炎、汗疱状白癬そして虫刺症は4、5月から増加しはじめ、8月にもっとも多く、9月に急激に減少する。慢性湿疹と手皮膚炎は年間を通してあまり変動しない。

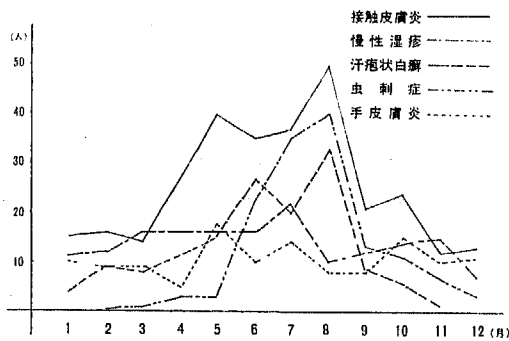


図6 上位5疾患の月別変動

発病から当科受診までの期間を図7に示した。約半は発症より1週間以内に受診するが、半数は1ヵ月以上1年以内に受診し、20%近くは1年以上で受診している。幼児は一般に発病より受診までの期間は短い。勤労者、学生層では期間が長い。なお長期治療患者(後述)の半は発病より当科受診までの期間が1年以上であった。

受診回数別患者比率を図8に示した。患者の半数以上

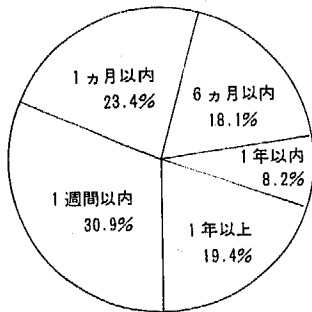


図7 発病より受診までの期間

長期治療患者の半は発病より受診までの期間が1年以上の患者である

上が1回のみの受診に終わっており、80%の患者は3回までで来院しなくなる。1回の投薬、処置で治癒する皮膚疾患も少なくはない。しかし、診療姿勢、患者とのコミュニケーション、特に疾患の説明不足など、検討する必要がある。

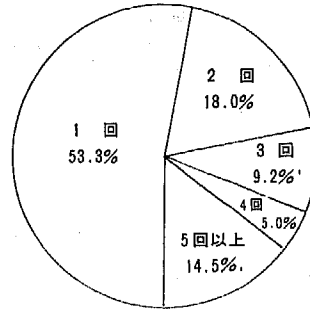


図8 受診回数別患者比率

疾患別長期治療患者数を図9に示した。便宜上受診回数5回以上を長期治療患者とした。当科では一般に4日ないし1週間単位で投薬しているので、受診回数5回以上を長期とした。尋常性痤瘡117名中47名、40.1%、円形脱毛症73名中39名、53.4%、表在性白癬299名中27名、13.9%、蕁麻疹150名中21名、14%などに長期治療患者が多い。

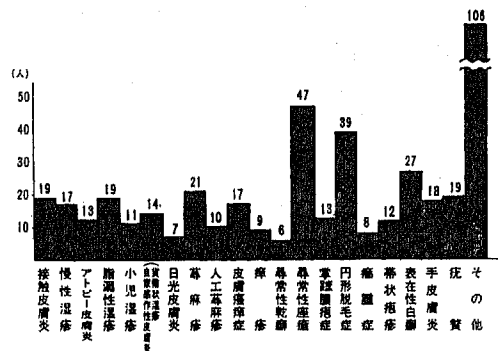


図9 疾患別長期治療患者数  
受診回数5回以上 452名

#### Ⅳ. 帯状疱疹の統計的観察

先に述べた疾患の中で、当地で特に多い帯状疱疹について昭和49年より3年間の統計的観察を試みた。

##### A. 新来患者に占める頻度

年度別の患者数および百分率を表2に示した。

3年間の新来患者総数11418名のうち、帯状疱疹患者は249名、2.18%である。船橋ら(東京虎の門)<sup>11)</sup>

(1.38%), 田辺 (広島大学)<sup>12)</sup>(0.93%), 熊谷ら (金沢大学)<sup>13)</sup>(0.65%), 緒方ら (福岡, 飯塚)<sup>14)</sup>(1.7%), 齊藤ら (東北大学)<sup>4)</sup>(0.93%), 信州大学<sup>5)</sup>(0.87%), 小嶋 (東京三楽)<sup>15)</sup>(0.89%) のいずれよりも多い。

男子 123 名, 女子 126 名で性別差はない。

表 2 带状疱疹の年度別患者数および百分率

| 年度 | 新来患者総数 | 带状疱疹患者数 | 同左 % |
|----|--------|---------|------|
| 49 | 3076   | 81      | 2.63 |
| 50 | 3882   | 77      | 1.98 |
| 51 | 4460   | 91      | 2.04 |

B. 带状疱疹患者の月別変動

3年間の月別来院実数を図10に示した7月から10月にやや増加している。

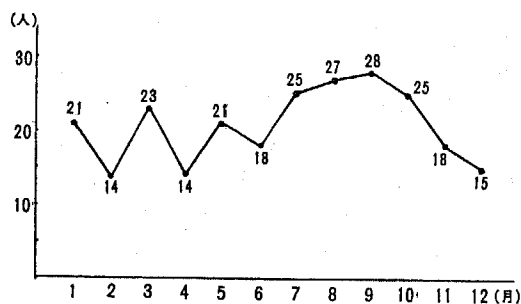


図10 带状疱疹患者の月別変動

男 123人 女 126人 計 249人  
(S49~S51)

C. 年 令

患者の年齢分布を図11に示した。20代に鋭い第1のピーク, 50代, 60代, 70代にまたがる巾広い第2のピークを有する2峰性分布を示している。この特色ある2峰性分布は小嶋ら<sup>15)</sup>多くの報告者により指摘されている。

図2の患者年齢分布から, 全患者の18.3%を占めるにすぎない50代, 60代, 70才以上の患者が高率50.6%に罹患しているのがわかる。

D. 発症部位

部位別発症頻度を図12に示した。軀幹部で最も多く, ついで頭部, 顔面と続き, このうち Hunt 症候群を呈したものが4例ある。上下肢はほぼ等しく, 会陰部が最低である。右側 128例, 左側 121例で, 左右差はほとんどない。

部位による年齢差はあまりないが, 頭部, 顔面では

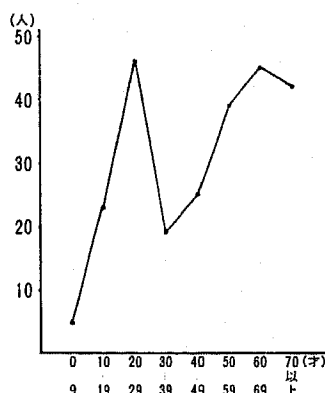


図11 带状疱疹患者の年齢別分布  
(S49~S51)

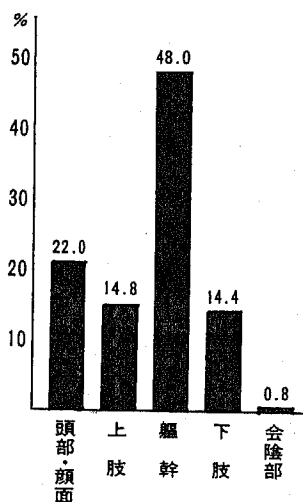


図12 年带状疱疹の発症部位  
左右差 右:左=128:121  
(S49~S51)

やや高齢者に多い。

汎発例は3例で, 50代, 60代, 70代の各1例である。

E. 経 過

带状疱疹の経過を表3および表4に示した。

初診以後1週間以上の経過観察のできた221例について発疹と疼痛との関係を見た。約半数は2週間以内に治癒し, 70%以上が3週間以内に治癒している。

50才以上の高齢者は皮疹, 疼痛ともに消失までに長期間を要する。また疼痛が皮疹よりも一般に長く続く。神経痛が後遺症として残ったものは8例で, その

表3 帯状疱疹の経過(1)  
年令別発疹・疼痛持続期間

| 期間    | 年令 | 0 | 10 | 20 | 30 | 40 | 50 | 60 | 70  |
|-------|----|---|----|----|----|----|----|----|-----|
|       |    | 才 | 才  | 才  | 才  | 才  | 才  | 才  | 才以上 |
| 7日    | 発疹 | 1 | 0  | 1  | 2  |    |    | 1  | 1   |
|       | 疼痛 | 8 | 4  | 5  | 1  |    |    | 0  | 1   |
| 14日   | 発疹 | 9 | 14 | 26 | 4  | 10 | 9  | 14 | 12  |
|       | 疼痛 | 2 | 12 | 24 | 4  | 8  | 7  | 14 | 12  |
| 21日   | 発疹 |   | 7  | 13 | 8  | 7  | 14 | 11 | 9   |
|       | 疼痛 |   | 5  | 9  | 8  | 9  | 12 | 8  | 6   |
| 28日   | 発疹 |   | 1  | 1  | 2  | 3  | 6  | 6  | 3   |
|       | 疼痛 |   | 1  | 2  | 4  | 2  | 4  | 3  | 1   |
| 35日   | 発疹 |   |    |    | 2  | 1  | 3  | 4  | 7   |
|       | 疼痛 |   |    |    | 1  | 2  | 4  | 3  | 4   |
| 42日   | 発疹 |   |    |    |    |    | 1  | 2  | 2   |
|       | 疼痛 |   |    |    |    |    | 1  | 0  | 4   |
| 49日   | 発疹 |   |    |    |    |    | 0  |    |     |
|       | 疼痛 |   |    |    |    |    | 2  |    |     |
| 56日以上 | 発疹 |   |    |    |    | 1  | 1  | 0  | 2   |
|       | 疼痛 |   |    |    |    | 0  | 4  | 10 | 8   |

うち消失までに6カ月を要したものの4例、同じく1年2例、2年1が例である。

若年者では疼痛は皮疹と同時期またはそれより早期に消失し、10代では全く疼痛を訴えない患者も数例みられる。

V. まとめ

長野県のほぼ東部の、約700mの標高に位置する佐久総合病院で一年間に経験した皮膚疾患患者について統計的観察を試みた。

1) 新来患者数は5月～8月に多く、0～9才と20代女子にピークを認める。

この両年代は比較的受診しやすいことも一因で、このようなピークを生じたと思われる。

2) 20代女子では手皮膚炎が非常に多く、結婚出産に伴う水仕事の増加が直接の原因と思われる。

3) 地域的には、本院の所在地である臼田町および隣接する佐久市の受診者が全体の1/2を占めるが、遠方

表4 帯状疱疹の経過(2)  
年令別発疹・疼痛との関係

| 発疹    | 疼痛 | 7   | 14  | 21 | 28 | 35 | 42 | 49 | 56  |
|-------|----|-----|-----|----|----|----|----|----|-----|
|       |    | 日   | 日   | 日  | 日  | 日  | 日  | 日  | 日以上 |
| 7日    | 発疹 | ◎1  | ○3  | ○1 |    |    |    |    |     |
|       | 疼痛 | ○1  | ×2  |    |    |    |    |    |     |
| 14日   | 発疹 | ◎10 | ◎13 | ◎1 |    | △1 | ×1 |    | ○1  |
|       | 疼痛 | ○5  | ○22 | ○2 |    | ×1 |    |    | ×1  |
| 21日   | 発疹 | ◎1  | ◎2  | ◎2 | ◎3 | ×1 | ×1 | △1 | △2  |
|       | 疼痛 | ○4  | ○11 | ×2 |    |    |    |    | ×4  |
| 28日   | 発疹 |     |     | ×1 | ◎1 | △3 |    |    | ×3  |
|       | 疼痛 |     |     |    | ○3 | ×4 |    |    |     |
| 35日   | 発疹 |     |     |    |    | ○1 | △1 | △1 | ×7  |
|       | 疼痛 |     |     |    |    | △2 | ×1 |    | ×2  |
| 42日   | 発疹 |     |     | ×1 |    |    | ×2 |    | △1  |
|       | 疼痛 |     |     |    |    |    |    |    | ×1  |
| 49日   | 発疹 |     |     |    |    |    |    |    |     |
|       | 疼痛 |     |     |    |    |    |    |    |     |
| 56日以上 | 発疹 |     |     |    |    |    |    |    | △1  |
|       | 疼痛 |     |     |    |    |    |    |    | ×2  |

◎: 0～19才    ○: 20～39才  
△: 40～59才    ×: 60才～

の農村からの受診者も多い。避暑客、帰省者などの県外受診者も少なくない。

4) 疾患分類別患者数では、ウィルス性皮膚疾患、動物性皮膚疾患、化膿性皮膚疾患、真菌性皮膚疾患、蕁麻疹類が諸家の報告に比較して多い。

5) 疾患別では接触皮膚炎、虫刺症が非常に多く、帯状疱疹、日光皮膚炎が他機関と比較して多い。高地の農村という環境が大いに関与しているものと思われる。

6) 発病から当科受診までの期間は、約1/3は発症より1週間以内に、半数は1カ月以上1年以内に受診している。

7) 受診回数では、患者の半数以上が1回、80%の患者は3回までで来院しなくなり、治療を中断したと考えられる例も多い。

8) 長期治療患者は、尋常性痤瘡、円形脱毛症、表在性白癬、蕁麻疹などに多い。

9) 当地方でかなり高率に発生している帯状疱疹は総外来患者の2.18%を占め、諸家の報告のいずれよりも多い。性別差はなく、季節的には7月から10月にやや増加の傾向がみられる。年齢分布で、20代と50代以上にピークを有する二峰性分布が認められた。高令者の罹患率が有意に高く、また高令者ほど治療に長期間を要する傾向が認められた。帯状疱疹後神経痛も高令者に多い。

本内容の一部は1976年11月第72回日本皮膚科学会信州地方会、1975年7月第32回長野県農村医学会総会において発表した。御校閲いただいた高瀬吉雄教授に深謝いたします。

#### 文 献

- 1) 北村包彦, 川村太郎: 小皮膚科学. 改訂第9版, 金原出版, p. 456, 東京, 1973
- 2) 小野公義: 統計からみた一地方病院の皮膚科の日常外来診療について. 皮膚臨床, 16: 1073-1076, 1974
- 3) 岡本暉公彦, 高瀬吉雄: 進行性指掌角皮症の研究. 信州医誌, 24: 131-141, 1976
- 4) 齊藤信也, 大角 毅, 加藤泰三, 照井寿代, 五十嵐稔: 東北大学皮膚科新来患者5カ年間の統計的観察 その6 (1959-1963). 西日本皮膚, 37: 96-110, 1975
- 5) 信州大学皮膚科外来患者統計 (1963). (未発表).
- 6) 齊藤信也, 加藤泰三, 大角 毅, 石橋正夫, 照井寿代: 東北大学皮膚科新来患者5カ年間の統計的観察 その4 (1949-1953). 西日本皮膚, 36: 35-48, 1974
- 7) 齊藤信也, 加藤泰三, 大角 毅, 石橋正夫, 照井寿代: 東北大学皮膚科新来患者5カ年間の統計的観察 その5 (1954-1958). 西日本皮膚, 36: 49-62, 1974
- 8) 笹井陽一郎, 長山 賢: 東北大学皮膚科新来患者5箇年の統計的観察. 日皮会誌, 67: 77-90, 1957
- 9) 山辺晴夫: 東北大学皮膚科新来患者5箇年の統計的観察. 皮性誌, 64: 84-97. 1954
- 10) 野村 一, 遠山秀一: 東北帝大皮膚科泌尿器科新来患者10箇年ノ統計的観察. 皮性誌, 51: 283-

294, 1942

- 11) 船橋俊行, 堀 嘉明, 木下正子, 張由美子: 帯状疱疹の疫学について. 皮膚臨床, 9: 21-27, 1967
- 12) 田辺泰民: 5年間 (昭和31-35年) の帯状疱疹ならびに水痘の統計的観察. 皮膚臨床, 3: 634-635, 1961
- 13) 熊谷武夫, 長井 忠: 帯状疱疹および水痘の統計. 皮膚臨床, 3: 634-635, 1961
- 14) 緒方克己, 中村昭典: 帯状疱疹の治療. 皮膚臨床, 17: 1009-1012, 1975
- 15) 小嶋理一: 帯状疱疹と水痘の統計. 皮膚臨床. 3: 629-631, 1961
- 16) 久木田淳, 神村瑞夫, 高橋成夫, 佐藤昌三, 高橋誠, 松沢 徹, 高橋良造, 佐々木直子, 王 鈔: 昭和38年度札幌医科大学皮膚科外来患者統計. 日皮会誌, 77: 381, 1967

(52. 6. 18 受稿)